

I 農 林 技 術 研 究 所

茶業研究センター

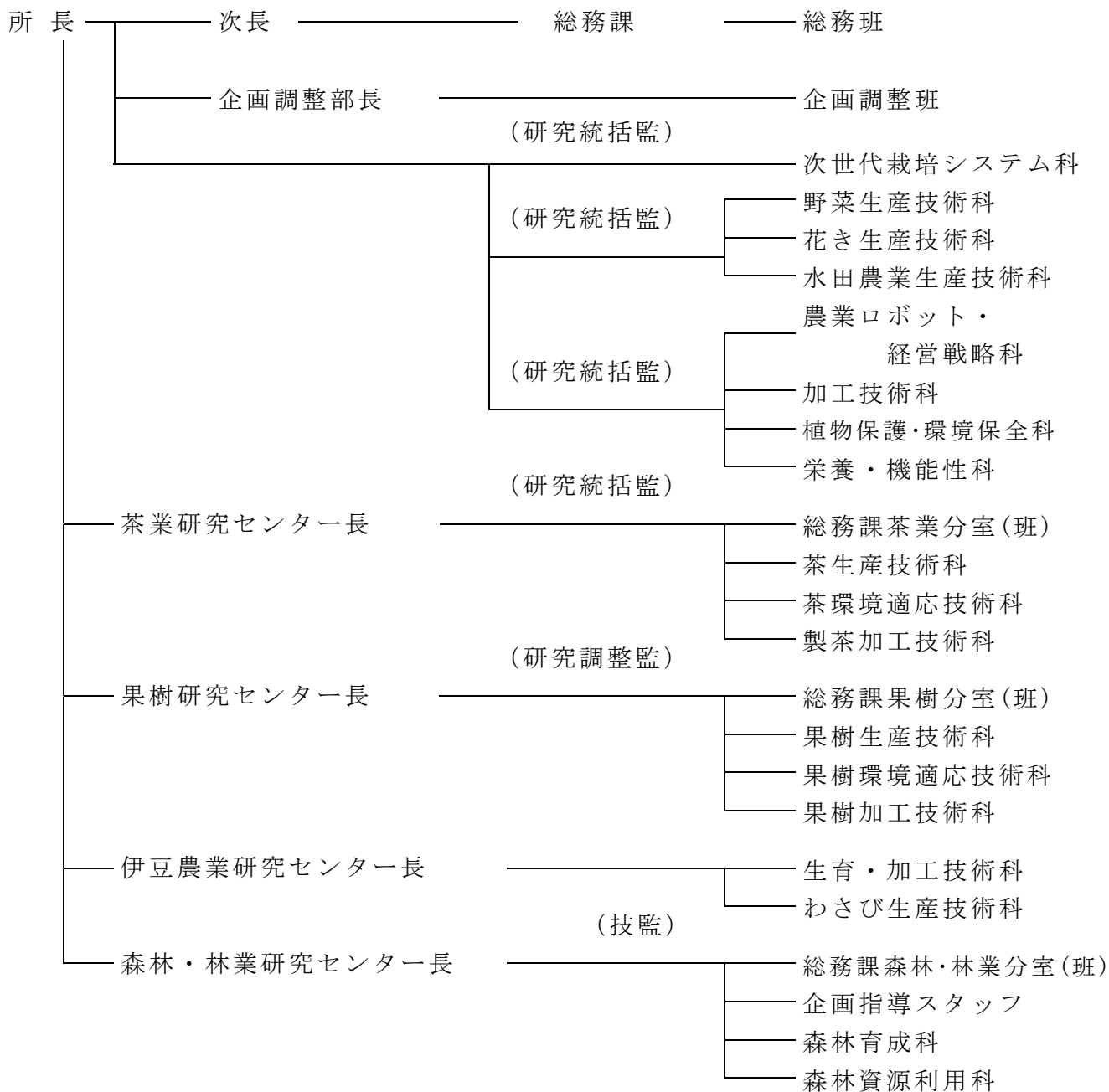
果樹研究センター

伊豆農業研究センター

森林・林業研究センター

I 農林技術研究所

1 試験研究組織



2 試験研究職員構成

区 分	事務職員	技術職員		技能労務職員	計	
		研究	行政			
農林技術研究所 (本所)	所長		1		1	
	次長	1			1	
	総務課	6 ②			6 ②	
	研究統括監		3		3	
	企画調整部	部長		1		1
		専門監		1		1
		企画調整班	③	2	8 [3] ⑱	10 [3] ㉑
	次世代栽培システム科		2		2	
	野菜生産技術科		5		5	
	花き生産技術科		5		5	
	水田農業生産技術科		7		7	
	農業ロボット・経営戦略科		4		4	
	加工技術科		4		4	
植物保護・環境保全科		7		7		
栄養・機能性科		2	1 [1]		3 [1]	
計	7 ⑤	40	5 [1]	8 [3] ⑱	60 [4] ㉓	
茶業研究センター	センター長		1		1	
	研究統括監		1		1	
	総務課茶業分室	3 ①			1 ⑤	4 ⑥
	茶生産技術科		6		6	
	茶環境適応技術科		5		5	
	製茶加工技術科		4	1 [1]		5 [1]
	計	3 ①	16	2 [1]	1 ⑤	22 [1] ⑥
果樹研究センター	センター長		1		1	
	研究調整監		1		1	
	総務課果樹分室	3 [1]			1 ⑤	4 [1] ⑤
	果樹生産技術科		6		6	
	果樹環境適応技術科		5		5	
	果樹加工技術科		4		4	
	計	3 [1]	17		1 ⑤	21 [1] ⑤
伊豆農業研究センター	センター長		1		1	
	生育・加工技術科	①	5	1 ④	6 ⑤	
	わさび生産技術科	①	3		①	3 ②
	計	②	9	1 ⑤	10 ⑦	
森林・林業研究センター	センター長			1	1	
	技監			1	1	
	総務課森林・林業分室	3			1 ②	4 ②
	企画指導スタッフ			1	1	
	森林育成科		8		8	
	森林資源利用科		5		5	
	計	3	13	3	1 ②	20 ②
合 計	16 [1] ⑧	95	10 [2]	12 [3] ㉓	133 [6] ㉔	

(注) [] は再任用職員で内数、○は非常勤嘱託職員で外数。病虫害防除所は除く。

3 試験研究方針

研究開発の背景・ニーズ

(農林業の現状)

●農業

農業産出額 2,204億円(平成27年)

- ・上位を占める茶、みかん、米、イチゴ、メロンは、高品質で全国的に高評価
- ・ビジネス経営体を中心として雇用を活用した大規模な法人経営が増加
ビジネス経営体数:383
販売額 798億円
販売額1億円以上の大規模法人 54%(平成27年)

●林業

林業産出額 105億円(平成27年)

- ・森林資源の循環利用に向けて、県内全域において木材増産の取組
- ・伊豆地域を中心に高品質なシイタケの生産支援
- ・県内の木材需要50万m³を確保
- ・公共部門や非住宅部門の木材利用も進行中
- ・丸太の安定供給体制の構築や新たな木材の利用技術ニーズの拡大

(背景・ニーズ)

- ・国内外との競争を見据えた生産性、収益性の向上や担い手の確保
- ・マーケットインの考え方にに基づき、市場を見据えた商品を提供できる生産力の強化を環境と調和しながら実施
- ・ICTや食品の機能性等に注目した農林業関連企業の取組も増加

経済産業ビジョンの施策体系

経済産業ビジョン

本県経済の持続的発展、豊かな県民生活の実現
「静岡県の姿」を実現する戦略展開の方針

農業・農村編

1 AOIプロジェクトの推進

- (1) 農業の生産性向上と関連産業のビジネス展開の促進
- (2) AI学習支援システムの開発と技術継承
- (3) 農業用ロボット開発の促進

2 多様な人々が活躍する農芸品の生産力強化

- (1) 多彩な農芸品の生産拡大
- (2) 次代を担う農業経営体の育成
- (3) 市場と生産が結びついたマーケティング戦略の推進

3 環境と調和し、人々を惹きつける都づくりと農山村の再生

- (1) 「食」、「茶」、「花」の都づくり
- (2) 美しい活力のある農山村の創造

森林・林業編

「経済」「社会」「環境」が調和した多様性のある森林づくり

- (1) 森林資源の循環利用による林業・木材産業の成長産業化
- (2) 森林の適正な整備と保全による多面的機能の向上
- (3) 県民総参加による持続的で魅力的な森づくり活動の推進

試験研究(研究開発)における重点方向

1 農・食・健連携のアグリオープンイノベーションの推進

- ・革新的栽培技術等のシーズ開発
- ・AOI-PARCにおける民間事業者の研究開発支援
- ・微生物や食品機能性分野等におけるプラットフォーム提供

2 生産性を革新する省力化・効率化技術の開発

- ・移動・運搬作業を無人化する農業用自律走行ロボット等の開発
- ・無人航空機やICTの活用及び栽培方式の改善による効率的で精密な農業生産管理技術の開発
- ・エリートツリーの早期種子生産や伐採と造林の一貫作業システム等初期造林コスト低減技術の開発
- ・ICTを活用した効率的な丸太生産や森林資源情報の共有化に関する技術開発

3 マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発

- ・輸出拡大等に対応した長期保存・包装・輸送技術等の流通技術の開発
- ・実需者(消費者・加工業者)ニーズに対応する品種育成
- ・新たなマーケット需要に対応した新商品や製造技術の開発
- ・多様な木材ニーズに対応するICTによる需給情報の共有化に関する技術開発

4 持続的農業生産技術や森林保全技術の開発

- ・環境にやさしい病虫害防除、肥培管理技術の開発
- ・無人航空機による農作物の効率的な病虫害防除・施肥技術や効率的な森林病虫害の防除技術の開発
- ・ニホンジカ等の効率的な捕獲技術の開発
- ・海岸防災林の早期造成技術の開発

※技術支援及び事業的業務は除く

平成30年度 農林技術研究所（本所） 試験研究課題一覧

≪試験研究の重点方向≫

農・食・健連携のアグリオープンイノベーションの推進
[2課題]

生産性を革新する省力化・効率化技術の開発
[8課題]

マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発
[10課題]

持続的農業生産技術や森林保全技術の開発
[9課題]

≪ 研究 課 題 ≫

- 1 [成]健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出(28-30)〈共〉
- 2 AOIプロジェクトを推進する革新的栽培技術の開発(29-33)〈交〉〈委〉
- 3 [成]移動及び運搬作業を解消する農業用自律走行ロボットの開発(29-31)〈共〉
- 4 小麦作の強害雑草ネズミムギによる被害の把握とその防除技術の確立(28-31)〈委〉〈共〉
- (5) [成]無人航空機による樹園地の超省力・精密生産管理システムの開発(28-30)
- (6) キウイフルーツ・ナシ安定生産のための花粉自給率向上に繋がる省力・低コスト花粉採取技術の開発(28-30)〈委〉〈共〉
- 7 農作物品種及び生産資材の比較、検定、調査(30)〈受〉
- 8 (新)規模拡大、高収益のためのイチゴ栽培技術の開発(30-32)〈委〉
- 9 トマトの周年生産における生理障害発生防止技術の確立(28-30)〈委〉
- 10 (新)大規模水田農業に組み込む省力・増収栽培技術の開発(30-32)
- 11 水稻の新品種育成(28-32)
- 12 省力・低コスト生産が可能な次世代に向けたイチゴ優良母本の育成(28-32)
- 13 極早生タマネギの育種と生体解剖(29-33)〈受〉
- 14 黄色輪ギクの新品種育成(29-33)
- 15 水稻・畑作物奨励品種決定試験(28-32)
- 16 レタス安定出荷のための収穫予測技術の開発(29-31)
- 17 夏冬を制する技術開発が花き経営の所得を増加させる(28-30)〈委〉
- 18 本県特産花きの日持ち向上対策技術の確立(28-30)〈受〉〈共〉
- 19 [成]ふじのくに農水産物の品質・競争力向上と輸出拡大技術の開発(28-30)〈共〉
- 20 ビジネス経営体の発展過程の解明による育成支援策の提案(29-31)
- 21 施設園芸作物における進化型IPMを構成する要素技術の開発(26-30)〈委〉〈共〉
- 22 (新)AIを活用したイチゴの病害虫診断技術の確立(30-33)〈委〉
- 23 圃場の健康診断に対応したネギ病害虫予防的管理技術の開発(28-30)〈委〉
- 24 難防除病害虫の防除効果安定化とイチゴ果実の輸出促進に向けたIPM体系の確立(28-30)〈委〉〈共〉
- 25 新しい農薬の適応選抜(30)〈受〉
- 26 牛ふん堆肥ベースの新肥料および土壌中蓄積窒素の活用による効率的施肥管理技術の開発(27-31)〈委〉〈共〉
- 27 メタン発酵消化液の農作物への利用技術の開発(29-31)〈受〉
- [28] (新) [成]生産基盤拡大に繋がる家畜ふん尿の乾燥及びエネルギー転換技術の開発(30-32)〈共〉
- 29 県内主要農耕地の土壌環境及び土壌炭素モニタリング調査(26-30)〈委〉

(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、〈委〉：国庫委託、〈助〉：国庫補助、〈交〉：国庫交付金、〈受〉：受託事業、〈共〉：共同研究

平成30年度 農林技術研究所（茶業研究センター） 試験研究課題一覧

＜試験研究の重点方向＞

＜ 研 究 課 題 ＞

農・食・健連携の
アグリオープンイ
ノベーションの推
進

[1 課題]

生産性を革新す
る省力化・効率化
技術の開発

[2 課題]

マーケットにお
ける競争力を強
化する新商品・技
術の開発

[9 課題]

持続的農業生産
技術や森林保全
技術の開発

[5 課題]

(1) [成]健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出(28-30)

(2) [成]移動及び運搬作業を解消する農業用自律走行ロボットの開発(29-31)

(3) [成]無人航空機による樹園地の超省力・精密生産管理システムの開発(28-30)

4 [成]静岡抹茶の生産拡大に向けたてん茶安定生産技術の開発(29-31)

(5) [成]ふじのくに農水産物の品質・競争力向上と輸出拡大技術の開発(28-30)〈共〉

6 新品種の育成(28-32)

7 品種の選定(28-32)〈委〉

8 チャ育成地育成系統の地域評価試験(26-30)〈委〉〈共〉

9 品種茶利用促進のための特性解明(27-31)

10 茶における輸出相手国の残留農薬基準値に対応した防除技術の開発(28-32)
〈受〉〈共〉

11 日本茶(一番茶)の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証(28-30)
〈受〉〈共〉

12 静岡の香りに特色ある茶の品質評価・香味改善に関する研究(29-31)

13 メタン発酵消化液を利用した茶施肥管理技術の開発(28-31)〈受〉

14 ハマキガ類の殺虫剤抵抗性機構の解明と抵抗性診断技術の開発(26-30)〈委〉
〈交〉〈共〉

15 省力的かつ効率的なチャ病害虫防除技術の確立(28-30)〈交〉

16 新農薬実用化試験(30)〈受〉

17 新農薬・新肥料及び新資材等の効果確認及び使用法の検討(30)〈受〉

(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、〈委〉：国庫委託、〈助〉：国庫補助、
〈交〉：国庫交付金、〈受〉：受託事業、〈共〉：共同研究

平成30年度 農林技術研究所（果樹研究センター） 試験研究課題一覧

≪試験研究の重点方向≫

≪ 研 究 課 題 ≫

農・食・健連携のアグリオープンイノベーションの推進
[1課題]

(1) [成]健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出(28-30) <共>

生産性を革新する省力化・効率化技術の開発
[7課題]

2 カキ、キウイフルーツ育成新品種の利用法の開発(27-32) <委> <共>

3 [成]無人航空機による樹園地の超省力・精密生産管理システムの開発(28-30) <共>

(4) [成]移動および運搬作業を無人化する農業用自律走行ロボットの開発(29-31) <共>

5 カンキツ新樹形における効率的な管理手法の開発(28-32) <委> <共>

6 ブルーベリー、カキ、スモモウメ、イチジクの規模拡大に向けた生産性向上技術の開発(27-30) <委> <共>

7 キウイフルーツ・ナシ安定生産のための花粉自給率向上に繋がる省力・低コスト花粉採取技術の開発(28-30) <委> <共>

8 (新)落葉果樹における低コスト施設栽培技術の開発(30-32)

マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発
[3課題]

(9) [成]ふじのくに農水産物の品質・競争力向上と輸出拡大技術の開発(28-30) <共>

10 ウンシュウミカンの長期鮮度保持技術の実証(28-30) <委> <共>

11 しずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定(28-32) <委> <共>

持続的農業生産技術や森林保全技術の開発
[3課題]

12 (新)果樹における土着天敵の増殖・利用体系の開発(30-32)

13 (新)温州萎縮病の耐病性台木育成による被害軽減技術の開発(30-34)

14 生育調節及び病害虫防除等新資材の開発(30) <受>

(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、<委>：国庫委託、<助>：国庫補助、<交>：国庫交付金、<受>：受託事業、<共>：共同研究

平成30年度 農林技術研究所（伊豆農業研究センター） 試験研究課題一覧

≪試験研究の重点方向≫

農・食・健連携のアグリオープンイノベーションの推進 [2課題]

生産性を革新する省力化・効率化技術の開発 [3課題]

マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発 [3課題]

持続的農業生産技術や森林保全技術の開発 [1課題]

≪ 研 究 課 題 ≫

- 1 カワヅザクラ切り枝等伊豆特産作物の栽培技術の開発(29-31)
〈委〉〈共〉
- (2) [成]健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出(28-31) 〈共〉

- 3 夏期の高温化に適応したカーネーション新品種の育成選抜と栽培技術の開発(28-32)
- 4 マーガレット新品種育成と伊豆特産花きの生育特性の解明(28-32) 〈委〉〈受〉〈共〉
- 5 ワサビ新品種育成と系統選抜(28-32) 〈委〉〈共〉

- 6 伊豆の多様な販売形態に利用できる果樹品種の選抜(28-32)
- 7 (新)ヒュウガナツ系品種の高品質果実・長期出荷体系の開発(30-32)
- 8 ワサビ種苗の安定的生産供給体制の確立(28-30)

- 9 農作物品種及び生産資材の比較、検定、調査(30) 〈受〉

(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、〈委〉：国庫委託、〈補〉：国庫補助、〈交〉：国庫交付金、〈受〉：受託事業、〈共〉：共同研究

平成30年度 農林技術研究所（森林・林業研究センター） 試験研究課題一覧

《試験研究の重点方向》 《 研 究 課 題 》

森林資源の循環
利用による林業
の成長産業化
[9課題]

- 1 [成]多様なニーズに対応する県産材供給体制構築に関する技術開発(29-31)
- 2 要求性能に応じた木材を提供するため、国産大径材丸太の強度から建築部材の強度を予測する技術の開発(28-32) <委> <共>
- 3 菌床シイタケ栽培等における安定生産技術の開発(29-33) <交>
- 4 (新) シイタケ栽培等における新たな害虫の対策に関する研究(30-34)
- 5 (新) 成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発(30-34) <委> <共> <交>
- 6 (新) 原材料の安定供給による構造用集成材の低コスト化技術の開発(30-32) <委> <共>
- 7 (新) [成]エリートツリー種子の早期生産技術の開発(30-32) <共>
- 8 新たな人工交配施設を活用した優良種子生産技術の開発(28-32) <委>
- 9 (新) 低コスト育林体系技術の構築に関する研究(30-34) <共>

森林の多面的機能
の維持・増進
[4課題]

- 10 無人航空機による森林病虫害防除システムの実用化(28-30)<委> <共>
- 11 津波に強い多機能海岸防災林に対応した苗木生産と造成管理の技術開発(26-30)
- 12 シカ個体数削減過程で生じる捕獲効率低下の抑制に関する研究(28-32)
- 13 果樹園での加害獣判別と捕獲技術の確立およびイノシシの成獣捕獲技術の開発(28-30)

(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、<委>：国庫委託、<助>：国庫補助、
<交>：国庫交付金、<受>：受託事業、<共>：共同研究

4 平成 30 年度試験研究課題数

区 分		研究課題数 ^{注1,2)}		細目課題数	
			うち新規		うち新規
本 所	次世代栽培システム科	1	0	3	0
	野菜生産技術科	3	1	8	3
	花き生産技術科	3	0	6	0
	水田農業生産技術科	6	1	14	2
	農業ロボット・経営戦略科	5(2)	0	10	0
	加工技術科	1	0	2	0
	植物保護・環境保全科	5	1	13	2
	栄養・機能性科	5[1]	1[1]	12	1
	計	29(2)[1]	4[1]	68	8
茶 業 研 究 センター	茶生産技術科	8(3)	0	13	0
	茶環境適応技術科	8(1)	0	21	0
	製茶加工技術科	1	0	3	0
	計	17(4)	0	37	0
果 樹 研 究 センター	果樹生産技術科	5(3)	0	9	0
	果樹環境適応技術科	5	2	14	6
	果樹加工技術科	4	1	7	2
	計	14(3)	3	30	8
伊豆農業研究 センター	生育・加工技術科	7(1)	1	16	2
	わさび生産技術科	2	0	6	0
	計	9(1)	1	22	2
森林・林業研究 センター	森林育成科	7	3	15	7
	森林資源利用科	6	2	9	2
	計	13	5	24	9
農林技術研究所全体		72[1]	13[1]	181	27
平成 29 年度合計		72[1]	12	192	33

※ 平成 30 年度新成長戦略研究課題数（内数）

区 分		研究課題数 ^{注1,2)}		細目課題数	
			うち新規		うち新規
本 所		5(1)[1]	1	10	1
茶業研究センター		5(4)	0	8	0
果樹研究センター		4(3)	0	7	0
伊豆農業研究センター		1(1)	0	1	0
森林・林業研究センター		2	1	4	2
農林技術研究所全体		8[1]	2[1]	30	3
平成 29 年度合計		9[1]	3	36	10

注 1) () は、1つの研究課題を本所及び研究センター共同で実施している場合の連携機関としての研究課題数で、内数で記載。

注 2) [] は、1つの研究課題を複数の研究所間で実施している場合の連携機関としての研究課題数で、内数で記載。

5 平成30年度試験研究課題

(1) 本所

農林技術研究所(本所) No. 1

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (野菜) (特選野菜)	農・食・健連携アグリオープンイノベーションの推進	1 健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出<共>	(28-30)	本県食品関連産業を活性化し、「ふじのくに静岡の経済発展」と「健康増進」を推進するため、本県の豊かな農林水産物が持つ機能性を活かした研究を実施する。	加工技術科 (主) (中島輝子、大場聖司、豊泉友康) <共> 工技研、畜技研、水技研、環衛研、他	経済産業部	県単 (新成長)
		1-1 本県農林水産物の機能性データベースの構築<共>	28-30	・県の5研究機関の分野横断的な取り組みによって多様な農水産物の機能性情報を網羅したデータベースを構築する。			
		1-2 機能性表示制度を目指した商品開発<共>	28-30	・農林水産物や加工品の高付加価値化、機能性表示制度を活用した新商品開発など「出口」を見据えた研究開発を行う。			
農業一般 (野菜) (特選野菜)	農・食・健連携アグリオープンイノベーションの推進	2 AOIプロジェクトを推進する革新的栽培技術の開発	(29-31)	プロジェクト参画事業者の研究開発を促進するため、植物の環境応答解析を行い、革新的栽培技術を開発する。	次世代栽培システム科 (大石直記、貫井秀樹、佐藤陽介) 加工技術科 (中島輝子、大場聖司) 植物保護・環境保全科(片山晴喜) 他	農業戦略課	国交付金 (地方創生推進交付金) 国庫委託 2-3 革新事業(経営体強化プロ)
		2-1 環境条件と植物の成育との関係解明 <交>	29-31	・植物成育の指標となる生体情報評価法を確立し、環境条件と植物の成育速度等との関係を解明する(トマト等)。			
		2-2 環境状況と植物の機能性と関係解明 <交>	29-31	・機能性成分の効率的な分析技術を確立し、環境条件と植物の機能性成分との関係を解明する(ケール等)。			
		2-3 革新的栽培技術の開発<委>	29-31	・植物の環境応答解析に基づき、高機能化・高能率化等が可能な革新的栽培技術を確立する(アブラナ科野菜等)。			

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分	
野菜・茶業 ・果樹 (レタス・茶 カンキツ) (機械)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	3 移動および運搬作業を解消する農業用自律走行ロボットの開発<共>	(29-31)	ロボット(特に自律走行)の基盤技術を有する交通・運搬機械関連産業と農林技研が連携して、県内農業現場向けロボットを共同開発し早期実用化を図る。	農 業 ロ ボ ット・経営戦略科(山根俊、牧田英一、長藤亮彦、山崎成浩)	農業戦略課	県単 (新成長)	
		3-1 露地野菜栽培用運搬ロボットの開発<共>	29-31	・露地野菜栽培を対象に、収穫物の自動運搬や、作業者に自動追従走行できるロボットを開発する。				
		3-2 施設野菜栽培用自律走行作業補助ロボットの開発<共>	29-31	・施設野菜栽培を対象に、大型施設内を自律走行する作業補助ロボットを開発する。	茶業研究センター、			
		3-3 茶園用多目的ロボット走行体の開発<共>	29-31	・茶園内を無人で自律走行し、摘採、防除、施肥等の作業ユニットを装着でき、多目的な使用を可能とするロボット走行体を開発する。	果樹研究センター、 <共> 静岡県農業ロボット研究会他、			
		3-4 ロボットを活用する果樹園管理省力化技術の開発<共>	29-31	・追従型運搬ロボット等について、適合できる圃場条件を明らかにし、走行制御技術、樹園地管理技術を開発する。また、経営試算を行い、導入効果を明らかにする。				
作物 (畑 作)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	4 小麦作の強害雑草ネズミムギによる被害の把握とその防除技術の確立<委><共>	(28-31)	小麦作において低収、品質低下をもたらしているネズミムギの被害をその発生頻度等から予測・査定し、被害を抑制する効果的なほ場管理技術と畦畔などほ場周辺の管理技術を開発する。	水田農業生産技術科(外山祐介、亀山忠)	静岡県中遠稲作研究会	国庫委託 「多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発」	
		4-1 ネズミムギによる雑草被害を早期に簡易査定できる指標の開発<委><共>	28-31	・ネズミムギの発生時期、頻度、生育経過等から小麦に及ぼす被害を予測・査定し、効果的な管理手法を選択する技術を開発する。	<共> 中遠農林事務所			
		4-2 ネズミムギを低減するほ場管理技術の開発<委><共>	29-31	・ネズミムギを効果的に低減する、耕種的、化学的防除技術を開発する。				
		4-3 ほ場周辺部のネズミムギの効果的な防除技術の開発<委><共>	29-31	・ほ場内へネズミムギが侵入する経路となっている畦畔等のほ場周辺部における有効な防除技術を開発する。				

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果樹・茶業 (柑 橘) (機 械)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	5 無人航空機による樹園地の超省力・精密生産管理システムの開発 5-1 超省力化技術の開発	(28-30) 28-30	樹園地における無人航空機の利用技術を確立し、樹園地における農作業の省力・軽労働・低コスト化、かつ生産性を高める精密生産管理技術を開発する。 ・傾斜地の農作業のうち、重労働の農薬散布と施肥における無人航空機の利用技術を開発する。	農 業 ロ ボ ッ ト・経営戦略科 (山根俊、牧田英一) 果樹研究センター	農芸振興課 ・お茶振興課	県 単 (新成長) 所内連携
果 樹 (落葉果樹) (機 械)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	6 キウイフルーツ・ナシ安定生産のための花粉自給率向上に繋がる省力・低コスト花粉採取技術の開発 〈共〉〈委〉 6-1 静電風圧式受粉機の開発〈共〉	(28-30) 28-30	花粉の効率的採取法を目指した枝管理技術を開発すると共に、静電風圧式受粉機を開発することで花粉量を削減し、輸入花粉への依存度を下げる。 ・花粉量削減に向け、静電風圧式受粉機を開発する。	農 業 ロ ボ ッ ト・経営戦略科 (山根俊、牧田英一) 果樹研究センター 〈共〉 埼玉県、(国)革新工学研他	静岡県落葉果樹振興協会	国庫委託 (農林水産業・食品産業科学研究推進事業) 所内連携
その他 (共 通)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	7 農作物品種及び生産資材の比較、検定、調査〈受〉 7-1 農作物品種の比較、検定〈受〉 7-2 肥料等の効果検定、調査〈受〉 7-3 資材機械等の性能調査〈受〉	(30) 30 30 30	試験研究機関として日常的、地域的に対応する事項で、単年度あるいは課題化以前のもので、比較、検定調査が必要となる試験研究的事項について検討する。 ・新発表品種、既存品種・系統、新作物等の検討を行う。 ・新開発肥料、土壌改良剤等の検定、調査を行う。 ・被覆材、新型機械、器具の調査を行う。	栄養・機能性科 野菜生産技術科 水田農業生産技術科	県肥料協会等 JATAFF、種苗管理センター等	受託

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
野 菜 (イチゴ) (経 営)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	8 規模拡大・高収益のためのイチゴ栽培技術の開発<新><委>	(30-32)	イチゴ生産の規模拡大を進めるために、高設栽培と土耕栽培の両方について、低コストな栽培方式を開発する。	野菜生産技術科 (河田智明、松田考平、本間義之)	静岡県経済連、JA遠州夢咲、JA伊豆太陽	8-1 国庫 (低コストハウス)
		8-1 低コスト高設栽培法の確立<新><委>	30-31	・低コスト栽培槽と低コスト培地を用いて養水分の吸収量を測定し、灌水の適正化を図ると共に低コスト型環境制御機器の制御適正値を検討し、低コスト高設栽培マニュアルを作成する。			8-2、8-3 県単
		8-2 超低コスト土耕栽培方法の確立<新>	30-32	・土耕栽培で連続畝を利用した肥培管理、環境制御について検討し、超低コスト土耕栽培法の確立を図る。また、茶の補完作物としてイチゴを用いた複合経営モデルを作成する。			
		8-3 収量、収益減の要因究明と対策技術の開発<新>	30-32	・近年頂果房および一次腋果房での奇形果の発生が問題になっている。死花および奇形果発生の原因を究明すると共に、対策技術を開発する。			
野 菜 (トマト) (栽 培)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	9 トマトの周年生産における生理障害発生防止技術の確立<委>	(28-30)	気化冷却や夜冷等の環境管理や養水分管理等によって生理障害の発生を防止し、トマト周年生産の安定化を図る。	野菜生産技術科 (今原淳吾、田島万穂路、本間義之) 水田農業生産技術科 (藤川哲平) 16-2 <共> 農研機構、理化学研究所、横浜市大、静岡大学他	JA遠州夢咲 JA遠州中央	9-1 県単
		9-1 温・湿度管理による生理障害の発生防止	28-30	・フォグ&ファン等による高温期の生理障害防止効果を検証し温室の断熱強化を含めた低コスト高温対策技術を確立する。			9-2 国庫委託 (SIP オミクス利用による新世代栽培技術開発)
		9-2 養水分管理による生理障害の発生防止<委>	28-30	・気象変動や成育ステージに応じた養水分制御による生理障害防止技術を確立する。			
		9-3 統合環境制御における生理障害の発生防止	28-30	・統合環境制御システムを導入した現地温室における温湿度制御特性を解析し、生理障害の発生防止を図る。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課題内容説明	担当	要望元	予算区分
作物 (水稲・畑作)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	10 大規模水田に組み込む省力・増収栽培技術の開発<新> 10-1 高密度播種育苗・乳苗移植栽培の安定栽培技術の開発<新> 10-2 多収性品種を活用した労働分散モデルの検討<新>	(30-32) 30-32 30-32	大規模水田農家に対応する低コスト省力技術として高密度播種栽培を乳苗で実証するとともに、麦後作などの遅植えでも多収化が可能な飼料用米や業務用米の品種選定を行う。 ・水稲育苗方法の改善により、使用苗箱数の減少と育苗期間を短縮する技術を開発する。 ・遅植でも安定多収となる、本県に適した業務用米や飼料用米の品種を選定し、年間労働時間の平準化と収入確保による稲作経営の安定化を図る。	水田農業生産技術科 (松永真、後藤弘平)	中遠稲作研究会、県農政対策委員会	県単
作物 (水稲) (育種)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	11 水稲の新品種育成 11-1 酒造好適米品種等地域特産型品種の育成 11-2 野菜後作に適し、高温登熟性に優れた品種の育成	(28-32) 28-32 28-32	本県の気象・地域条件に適し地域特産ブランドとなりうる品種を育成する。 ・酒造好適米等の地域産業や消費と密接に結び付いた、特産ブランド化が期待できる品種を育成する。 ・水田の高度利用を可能にする野菜後作において高い栽培適性と高品質が両立する品種を育成する。	水田農業生産技術科 (外山祐介、亀山忠)	中遠農林事務所、中遠稲作研究会、静岡県経済連	県単
野菜 (イチゴ) (育種)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	12 省力・低コスト生産が可能な次世代に向けたイチゴ優良母本の育成 12-1 多様な育種母本を活用した優良母本の育成 12-2 光合成能力の高い優良母本の育成	(28-32) 28-32 28-30	省力・低コスト生産が可能な次世代に向けたイチゴ新品種の育成に向けた育種母本を育成する。 ・自殖弱勢を排除するために、野茶研で育成中である循環選抜による育種母本等を活用し、その評価を行う。優良系統は交配親として使用し、‘きらび香’に強草勢、炭疽病抵抗性、等が付与された優良母本を育成する。 ・光合成能力が高いとされる原種である <i>F.chiloensis</i> を交配親として選抜した育成系統を使用し、超多収性を有する優良母本を育成する。	野菜生産技術科 (河田智明、松田考平)	静岡県経済連	県単

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
野 菜 (タマネギ) (育 種)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	13 極早生タマネギの育種と生態解明<受> 13-1 交配親の収集と特性把握<受> 13-2 有望系統の早期育成方法の開発<受> 13-3 極早生の雄性不稔系統の育成と純度の向上<受>	(29-33) 29-33 29-33 29-33	有望個体同士の交配により、熟期、球の形状が均一なF1の有望系統を育成する。 ・生産者ごとに成熟期や形状等のばらつきが異なるため、交配親としての適性を把握するとともに、極早生タマネギの特性を解明する。 ・有望な交配親系統を安定的に栄養繁殖する方法、並びに播種した翌春に安定的に開花させる方法を開発する。 ・極早生の雄性不稔系統を得て、遺伝的な純度を向上させ、有望親同士のF1の特性を調査する。	水田農業生産技術科 (藤川哲平、坂口優子) 野菜生産技術科 (本間義之)	JAとぴあ浜松	受託 (JAとぴあ浜松)
花 き (キ ク) (育 種)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	14 黄色輪ギクの新品種育成 14-1 輪ギク実生優良系統の選抜 14-2 輪ギク育成系統の特性と現地適応性の検定	(29-33) 29-33 29-33	低温期に優れた伸長性・開花性を有する輪ギクオリジナル品種を育成し、本県産キクの市場性向上と経営安定を図る。 ・交配育種により、低温伸長性・開花性を有し、到花日数の短い本県オリジナルの黄色輪ギク有望品種を育成する。また、将来の育種に備え、省力性、多収性等特性に特徴のある優良素材を選抜する。 ・主特性(栽培特性、生育・開花の揃い、切り花品質等)を明らかにする。また、優良系統については早い段階で現地試験を行い、現地適応性を検定する。	花き生産技術科 (西岡奈々江、岩崎勇次郎)	JAとぴあ浜松	県単
作 物 (水 稻・ 畑 作) (育 種)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	15 水稻・畑作物奨励品種決定試験 15-1 水稻奨励品種決定試験 15-2 畑作物奨励品種決定試験	(28-32) 28-32 28-32	水稻：作業分散や気象災害の回避、実需者のニーズに対応するため熟期別、用途別に奨励品種を選定する。 小麦：用途別(めん用、パン用)に栽培適性に優れた奨励品種を選定する。 ・野菜後作での栽培に適した早生～中生熟期の高品質・良食味品種、及び栽培適性に優れた高品質な酒造好適米品種を重点に選定する。 ・地域、年次変動が小さく栽培安定性と多収性に優れためん用小麦品種と、給食用途のパン適性等に優れた品種を選定する。	水田農業生産技術科 (松永真、後藤弘平)	静岡県稲作研究会他	県単

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
野 菜 (レタス) (栽 培)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	16 レタス安定出荷のための収穫予測技術の開発 16-1 収穫適期予測技術の開発 16-2 収穫量予測技術の開発	(29-31) 29-31 29-31	市場出荷者や契約出荷大規模生産法人から要望が高い、レタス収穫期及び収量の予測技術を開発する。 ・日平均気温を用いて収穫適期(葉齢等)予測モデルを開発する。 ・気温の他、日射量を変数に加え、垂直投影面積等から収穫量予測モデルを開発する。また結球開始時の判断については、17-1で得られた値を用いる。	水田農業生産技術科 (坂口優子、藤川哲平)	静岡県経済連、中遠農林事務所	県単
花 き (バラ・ガーベラ) (栽 培)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	17 夏冬を制する技術開発が花き経営の所得を増加させる<委> 17-1 夏期の高温対策を中心とした生産性向上技術の開発<委> 17-2 冬期の省エネ対策技術の開発<委>	(28-30) 28-30 28-30	昼夜冷房等による夏期の高温対策技術ならびに断熱強化や変夜温管理等による冬期の省エネ対策技術の開発によりガーベラおよびバラの周年安定生産技術を確立する。 ・ミスト&ファン等による昼間の冷房や、新規多層断熱資材による効率的な夜間冷房など夏期の高温対策等による生産性向上技術を開発する。 ・新規多層断熱資材による断熱強化や、変夜温管理技術等を検討し、冬期の省エネ対策技術を開発する。	花き生産技術科 (寺田吉徳、岩崎勇次郎、梅田さつき)	静岡県経済連、JAとびあ浜松志太榛原農林	国庫委託 (革新的技術開発・緊急展開事業(経営体強化プロ))
花 き (クルクマ) (ガーベラ) (流 通)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	18 本県特産花きの日持ち向上対策技術の確立<受><共> 18-1 本県特産花きの前処理技術の開発<受> 18-2 本県特産花きの後処理技術の開発<受><共>	(28-30) 28-30 28-30	花きの観賞時には高温低湿等の不良環境にさらされることが多々あり、不良環境に対応できる後処理技術を開発する。 ・日持ち技術が確立されていないクルクマの収穫後の取扱方法や、ガーベラの弁反り対策技術等を検討し、本県特産花きの前処理技術を確立する。 ・後処理剤組成の検討や、その応用によるメンテナンスフリー切り花の利用拡大により、高温や低湿度等、劣悪な観賞条件下における日持ち性を確保できる後処理技術を開発する。	花き生産技術科 (寺田吉徳、岩崎勇次郎、梅田さつき、幸前宏美)	静岡県経済連、JAとびあ浜松	受託

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課題内容説明	担当	要望元	予算区分
野菜 (温室メロン、イチゴ) (流通・加工・経営)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	19 ふじのくに農水産物の品質・競争力向上と輸出拡大技術の開発<共>	(28-30)	本県の多彩な農水産物(茶、温室メロン、イチゴ、温州ミカン、カツオブシ、キンメダイ等)を対象に、品質・競争力の向上を図るとともに、積極的な輸出拡大を推進するための技術開発を行う。	農業ロボット・経営戦略科(長藤亮彦、山崎成浩) 加工技術科(中嶋輝子、大場聖司、池ヶ谷篤)	マーケティング課、農芸振興課	県単(新成長)
		19-1 輸出に適合した温室メロン・イチゴの品質・鮮度保持技術の開発<共>	29-30	・温室メロンでは、海外の高級志向に適合した温室メロンの熟度・香り制御技術を開発する。イチゴでは、果実がやわらかく衝撃に弱いことから、果実の傷みがない輸送技術と低コストな鮮度・品質保持システムを確立する。			
		19-2 本県産農芸品の輸出振興策の策定と経済性評価	28-30	・「ふじのくに農芸品」の中から輸出が期待できる農産物を選択し、嗜好性や消費特性、需要期を解析し、新たな売り込み方法を模索する。また、開発した技術の経済性を評価する。			
その他 (共通) (経営)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	20 ビジネス経営体の発展過程の解明による育成支援策の提案	(29-31)	県内外の最先端な経営を実践している経営事例を解析し、作目別の特徴を活かした経営発展モデルの提示や具体的な支援策を提案する。	農業ロボット・経営戦略科(長藤亮彦、山崎成浩)	農業戦略課、農業ビジネス課、農林事務所	県単
		20-1 ビジネス経営体への発展過程の解析による作目別の制限要因の解明	29-31	・県内の主要品目別に各経営発展段階における特徴と問題点を解明するとともに、営農指導に活用できる経営支援ソフトを開発する。			
		20-2 人材育成・組織体制から見たビジネス経営体の経営安定化方策の解明	29-31	・ビジネス経営体を対象に、経営の発展段階に応じた組織体制の変化及び社員育成(人材育成)について解析する。			

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分	
農業一般 (野菜) (病害虫)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	21 施設園芸作物における進化型 IPM を 構成する要素技術の開発<委><共>	(26-30)	環境の変化に対応した進化型 IPM を構築するため、新たな 防除手段による要素技術を開発する。	植物保護・環境 保全科 (伊代住浩幸、 土井誠、斉藤千 温、片山晴喜)	JA 中央会、 JA とびあ浜 松、JA 遠州 夢咲、 温室農協	21-1	
		21-1 トマトの天敵利用を核とした黄化 葉巻病抑制要素技術の開発 <委><共>	26-30	・黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミの新たな天敵など の利用による防除法を開発する。			21-1 <共>	国庫委託 (SIP トマ ト地上部)
		21-2 メロン害虫の光特性と天敵を利用 した IPM 要素技術の開発	26-30	・大型施設で、物理的防除技術として開発が進むLED光と天敵 を利用したミナミキイロアザミウマ防除の実用技術を開発 する。			中央農研、宮崎 大他	21-2 県単
		21-3 紫外線の活用によるイチゴ病害虫 同時防除を目指した IPM 要素技術の 開発 <委><共>	26-30	・一部病害への効果が確認されている紫外線照射を虫害防除 まで対象を広げた汎用技術としての活用を検討する。			21-3 <共>	21-3 国庫委託 (農林水産 省委託プロ ジェクト研 究)
		21-4 イチゴ栽培における IPM 要素技術 の体系化<委><共>	29-30	・ハダニの薬剤抵抗性の実態を解析し、生物的防除法や物理 的防除法を取り込んだ薬剤抵抗性発達抑制システムを構築 する。 ・当所で開発した赤色LEDアザミウマ被害制御技術を中心に各 種IPM要素技術を組み込んだ防除体系を確立し、実用性を検 証する。			京都大、奈良県 他 21-4 <共> 中央農研、他	21-4 国庫委託 (SIP イチ ゴ体系化)
野 菜 (イチゴ) (病害虫)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	22 AI を活用したイチゴの病害虫診断技 術の確立<新><委>	(30-33)	人工知能 (AI) によるイチゴ等の病害虫診断システムを開 発する。	植物保護・環境 保全科 (伊代住浩幸、 土井誠、斉藤千 温、寺田彩華、 片山晴喜)	静岡経済 連・イチゴ生 産地域	国庫委託 (農林水産 省委託プロ ジェクト研 究)	
		22-1. 病害虫・天敵類画像データベース の構築<新><委>	30~31	・主要病害虫を接種して被害や病徴を経時的に撮影、または 微小害虫、天敵を撮影して、協力機関とともに病害虫・天 敵の画像データを蓄積する。			(共) 中央農研 (中核)、公設 試(宮城県、栃 木県、兵庫県、 香川県、長崎 県)	
		22-2. 病害虫AI 診断手法の実証<新><委>	32~33	・病害虫が発生した生産現場等のイチゴについて、協力機関 が開発した病害虫診断AI システムによる診断を実施し、診 断精度を評価するとともに、早期診断に基づいた防除プロ グラムを策定する。				

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
野 菜 (シロネギ・ 葉ネギ) (病害虫)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	23 圃場の健康診断に対応したネギ病害 虫予防的管理技術の開発<委>	(28-30)	ネギ属作物において問題となっている土壌病害やアザミウ マ等を防止するため、ほ場の土壌病害発生リスクに対応した 病害虫の総合的防除マニュアルを開発する	植物保護・環境 保全科 (伊代住浩幸、 斉藤千温、土井 誠、寺田彩華、 片山晴喜) 栄養・機能性科 (若澤秀幸、中 村明弘、福島 務)	中遠農林、西 部農林、JA とぴあ 浜松、JA 遠 州中央	23-1
		23-1 シロネギでの黒腐菌核病発病レベ ルに対応した予防的防除技術の開 発<委>	28-30	・既存成果の黒腐菌核病総合防除マニュアル内のリスクごと に使用する防除対策メニューについて、これらの処理効果 向上のため土壌管理を含めた総合的防除技術の開発を行な う。			(イノベ創 出、農水省 委託プロ)
		23-2 葉ネギでの病害虫発生レベルに対 応した予防的防除技術の開発	28-30	・ネギアザミウマ等の害虫の光照射、天敵による防除法の開 発し、総合防除体系を確立する。			23-2 県単
野 菜 (イチゴ) (病害虫)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	24 難防除病害虫の防除効果安定化とイチ ゴ果実の輸出促進にむけた IPM 体 系の確立<委><共>	(28-30)	イチゴのハダニ類やうどんこ病は薬剤防除が困難である。 また、海外輸出には相手国の農薬残留基準値をクリアする必 要がある。そこで、イチゴにおける減農薬体系を確立する。	植物保護・環境 保全科 (片山晴喜、土 井誠、伊代住浩 幸、斉藤千温) <共> 農研機構、宮城 県、徳島県、香 川県他	静岡県経済 連	国庫委託 (革新的技 術・緊急展 開事業・地 域戦略)
		24-2 難防除病害虫および輸出に適 したイチゴ生産の IPM メニュー化 <委><共>	28-30	・育苗期の非農薬防除技術に加えて、定植後の生物的、物理 的防除、薬剤防除等を体系化し、難防除病害虫対策および 生果実輸出に対応したメニュー方式の総合的防除体系を確 立する。			
		24-3 輸出に適した難防除病害虫防除体 系の現地実証<委><共>	29-30	・難防除病害虫の IPM の現地実証を行い、防除効果とイチゴ 生果実が輸出相手国の残留農薬基準値をクリアするか検証 する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
その他 (共 通) (病虫害)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	25 新しい農薬の適応選抜<受>	(30)	新しい農薬の病害、虫害、雑草等に対する効果の検討及び安全性を検討するための試料調製を行う。	各 科	JA、植物防疫 協会	受託
		25-1 殺菌、殺虫剤 <受>	30	・環境に及ぼす影響が少ない薬剤について病虫害に対する防除効果、安全な使用法を検討する。			
		25-2 除草剤 <受>	30	・農作地の雑草に有効な除草剤を選抜、安全な使用法を検討する。			
		25-3 生育調節剤 <受>	30	・農作物に有効な生育調節剤を選定し、安全な使用法を検討する。			
		25-4 農薬残留分析試料調製 <受>	30	・環境保全、安全食糧の確保に資するため、農薬安全使用基準策定のための試料を得る。			
(野菜) (共 通) (土壌肥料)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	26 牛ふん堆肥ベースの新肥料および土壌中蓄積窒素の活用による効率的施肥管理技術の開発<委><共>	(27-31)	堆肥と化学肥料等を混合して成分調整した新肥料を開発するとともに、土壌消毒時における土壌蓄積窒素の動態を解明し、効率的な施肥管理技術を開発する。	栄養・機能性科 (中村明弘、福 島 務、若澤秀 幸) 26-1<共> 榎ホーチアグ リコ、九州沖縄 農研セ他	地域農業課、 西部農林 中遠農林 志太榛原農 林	26-1 国庫委託 「生産コス トの削減に 向けた有機 質資材の活 用技術の開 発」
		26-1 牛ふん堆肥をベースとした新肥料の製造と利用法の開発<委><共>	27-31	・牛ふん堆肥と化学肥料等を混合し、葉菜類向けに成分調整した新肥料(混合堆肥複合肥料)の製造条件、肥効調査、栽培実証試験を行い、効率的な施肥管理技術を開発する。			
農業一般 (野菜) (土壌肥料)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	27 メタン発酵消化液の農作物への利用技術の開発<受>	(29-31)	メタン発酵消化液は、窒素等の肥料成分を含んでいるが、その大部分が利用されずに浄化処理されている。そこで、消化液の作物や土壌に対する影響を明らかにし、効果的な施用手法を開発する。	栄養・機能性科 (福島務、中村 明弘、若澤秀 幸) 野菜生産技術 科 (田島万穂路)	鈴与商事株	受託
		27-1 メタン発酵消化液の利用に適した作物の検索<受>	29-30	・種々の野菜の幼植物試験等を実施し、消化液が液肥として使用可能な作物を明らかにする。			
		27-2 メタン発酵消化液の露地栽培への利用技術<受>	29-31	・露地栽培において、消化液を基肥及び追肥として施用する方法を確立する。			
		27-3 メタン発酵消化液の養液栽培への利用技術<受>	29-30	・消化液中のアンモニアを低コストで硝酸に変化させる方法及び消化液を培養液として利用する方法を確立する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (野菜) (土壌肥料)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	28 生産基盤拡大に繋がる家畜ふん尿の 乾燥及びエネルギー転換技術の開発 〈新〉〈共〉	(30-32)	家畜ふん尿の乾燥及びエネルギー転換時に発生する灰の有 効利用のため、肥料としての評価をおこない、利用技術を開 発する。	栄養・機能性科 (中村明弘、福 島務、若澤秀 幸)	畜産振興課	県単 (新成長) 所間連携
その他 (共 通) (土壌肥料)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	29 県内主要農耕地の土壌環境及び土壌 炭素モニタリング調査〈委〉	(26-30)	県内農耕地の土壌群、地目を代表する123定点の土壌環境の 実態を明らかにする。さらに重要定点について土壌炭素量を 営農活動と合わせて調査を行う。加えて、所内の堆肥連用ほ 場(昭和55年設置)において、有機物施用と炭素蓄積様式の関 係を明らかにする。	植物保護・環境 保全科(高橋冬 実) 栄養・機能性科 (若澤秀幸、福 島務、中村明 弘)	静岡経済連 県肥料協会	28-1 県単 28-2 県単 28-3 国庫委託 「農地土壌 炭素貯留等 基礎調査事 業」
		29-1 県内主要農耕地の土壌環境モニタ リング調査	26-30	・県内主要農耕地の土壌環境の実態を明らかにする。			
		29-2 県内水田におけるケイ酸供給力の 実態把握と土壌改善基準値の策定	29-30	・県内水田の土壌及び灌漑水によるケイ酸供給力の実態を明 らかにし、食用稲、飼料用稲等の作型にあわせた土壌改善 基準値を策定する。			
		29-3 県内主要農耕地の土壌炭素含有量 の実態把握と有機物施用が炭素蓄積 に及ぼす影響〈委〉	26-30	・県内主要農耕地土壌の炭素含有量の実態を明らかにすると ともに、有機物施用が土壌炭素蓄積に及ぼす影響を明らか にする。			

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

(2) 茶業研究センター

農林技術研究所 茶業研究センター No. 1

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (茶) (栽培・加工)	農・食・健連携のアグリオープンイノベーションの推進	1 健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出	(28-30)	<p>本県農林水産物の機能性情報を網羅したデータベースを構築する。また、機能性表示を目指した商品を開発する。</p> <p>・茶の機能性成分の含有量、変動等を解明し、データベース化する。</p> <p>・茶の機能性成分の増強技術を開発し、機能性表示を目指した商品を開発する。</p>	茶生産技術科 (鈴木利和、亀山阿由子)	研究開発課	県単 (新成長)
		1-1 本県農林水産物の機能性データベースの構築	28-30				所内連携
		1-2 機能性表示制度を目指した商品開発	28-30				所内連携
茶 業 (茶) (機械)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	2 移動および運搬作業を無人化する農業用自律走行ロボットの開発	(29-31)	<p>本研究では、移動、運搬をロボット化することで、重労働を解消し、労力削減を実現する。また、労働環境の改善により農業労働の魅力を上向きし、雇用確保につなげる。</p> <p>ここでは、既存の乗用型摘採機走行体を基に、自律走行体を開発する。うね内の操舵と旋回を自律制御することにより、無人走行を実現する。走行体は、摘採、防除、施肥などの作業ユニットを搭載可能とする。</p>	茶生産技術科 (中野敬之)	農業戦略課	県単 (新成長)
		2-3 茶園用多目的ロボット走行体の開発	29-31				所内連携
茶 業 (茶) (病害虫・栽培)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	3 無人航空機による樹園地の超省力化・精密生産管理システムの開発	(28-30)	<p>無人機を利用したセンシング技術を開発し、樹園地の生体情報を効率的に収集および解析する。</p> <p>・無人機による画像情報に基づき、茶園における病害虫被害や水分ストレスなどのストレス診断技術を開発する。</p>	茶生産技術科 (亀山亜由子) 茶環境適応技術科 (鈴木幹彦)	お茶振興課	県単 (新成長)
		3-2 センシング技術を応用した効率的生体情報収集技術の開発	28-30				所内連携
		3-2-3 センシングによるストレス診断の基礎技術開発					所内連携

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (抹茶) (栽培・加工)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	4 静岡抹茶の生産拡大に向けたてん茶安定生産技術の開発<共> 4-1 静岡抹茶に適した生葉の生産技術の開発<共> 4-2 高品質てん茶の加工技術の開発<共>	(29-31) 29-31 29-31	輸出の拡大等により、てん茶生産が急速に増加しており、県内でもてん茶工場の整備が進むなど、現場の意欲は高まっている。「茶の都」静岡県のブランド力を強化するためには、高品質なてん茶を安定的に生産することが不可欠である。 ・高収量または高品質なてん茶用生葉を安定生産するため、品種選定、枝条管理、被覆方法など最適な栽培方法を明らかにする。 ・摘採されたてん茶用生葉について、工場への搬入から蒸熱までの過程において最適な管理方法を明らかにする。	茶生産技術科 (中野敬之、鈴木利和、片井秀幸、池田早希、香田梨花) 製茶加工技術科 (小林利彰、勝野剛、後藤正、藤井沢、山本幸佳) <共> 富士通(株) カワサキ機工(株) (株)寺田製作所	お茶振興課	県 単 (新成長)
茶 業 (茶) (病害虫・土壌肥料)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	5 ふじのくに農水産物の品質・競争力向上と輸出拡大技術の開発 5-1 輸出茶(抹茶・有機茶)に対応した病害虫管理技術の構築と粉末化の実証 5-1-1 被覆栽培における病害虫管理技術の構築と実証 5-1-2 有機茶に対応した病害虫管理技術の構築と実証	(28-30) 28-30 28-30	輸出の拡大が期待される被覆茶や有機茶で、本県に適する病害虫の防除体系を確立し、その被覆茶から製造した粉末茶の品質を確認する。 ・二番茶での被覆栽培において、輸出相手国の残留基準値をクリアするための病害虫防除体系を構築し実証する。 ・有機栽培に対応した病害虫防除体系を構築し実証する。	茶環境適応技術科 (内山道春、渥美和彦、鈴木幹彦、内山徹、吉田達也)	お茶振興課	県 単 (新成長) 所内連携
茶 業 (茶) (育種)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	6 新品種の育成 6-1 遺伝資源の収集、保存 6-2 変異の拡大	(28-32) 28-32 28-32	収集、保存された遺伝資源を利用し、香味に優れた市場性が高い品種、耐寒性、耐病・耐虫性の品種を早期に育成する。 ・チャ遺伝資源の収集、保存を図る。 ・人為交配あるいは突然変異等により新しい遺伝子型を作出する。	茶生産技術科 (片井秀幸、池田早希、香田梨花)	お茶振興課	県 単

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (茶) (育種)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	7 品種の選定<委> 7-1 奨励品種選定試験<委>	(28-32) 28-32	本県で育成した優良系統と独法や他府県で育成した優良系統等について、生育・収量・品質の特性を比較検討し、静岡県の奨励品種としての適性を持った品種を選定する。	茶生産技術科 (片井秀幸、池田早希、香田梨花)	お茶振興課	県 単 国庫委託 (系適)
茶 業 (茶) (育種)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	8 チャ育成地育成系統の地域評価試験 <委><共>	(26-30)	温暖地育成地で育成された系統について、生育や耐寒性、耐病虫性、収量性、品質等の諸特性を明らかにする。併せて、中山間地における重要病害であるもち病に対する抵抗性を、ほ場発生レベルで明らかにする。	茶生産技術科 (片井秀幸、池田早希、香田梨花) <共> 農研機構果樹茶業研究部門	お茶振興課	国庫委託 (農食研)
茶 業 (茶) (育種)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	9 品種茶利用促進のための特性解明 9-1 新品種「ゆめするが、しずかおり」の特性評価 9-2 被覆特性評価 9-3 生葉香気発揚特性評価	(27-31) 27-31 27-31 27-31	近年育成した新品種について、品種茶の利用範囲の拡大を図るため、普通煎茶以外の特性を明らかにする。 ・新品種「ゆめするが、しずかおり」に適した蒸度を明らかにする。 ・おおい茶（白葉茶、かぶせ茶、碾茶など）生産のための被覆処理に適した品種を選定する。 ・香り緑茶（静岡型発酵茶、「第三の煎茶」など）生産に適した品種を選定する。	茶生産技術科 (片井秀幸、池田早希、香田梨花)	経済連	県単
茶 業 (茶) (病害虫)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	10 茶における輸出相手国の残留農薬基準値に対応した防除技術の確立<委><共> 10-1 的確な防除法確立のための病害虫特性の解明 10-1-2 赤焼病菌の生態特性及び発病機構の解明	(28-32) 28-32 28-32	茶の輸出を促進するために、輸出相手国の残留農薬基準値に対応できる病害虫防除体系を構築する。 ここでは、登録農薬が少なく発病後の防除が困難な赤焼病を対象に、発病と菌密度の関係を含めた発病機構の解明を行い、防除適期を再考するとともに、有効薬剤の選定を行う。	茶環境適応技術科 (鈴木幹彦) <共> 農研機構果樹茶業研究部門	経済連	国庫委託 (先導プロ)

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (茶) (病害虫)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	11 日本茶(一番茶)の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証〈委〉 〈共〉 11-1 一番茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証 11-2 輸出対応型病害虫防除体系の高度化素材技術の開発・確立 11-3 日本茶(一番茶)の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の普及支援	(28-30) 28-30 28-30 28-30	農産物を海外に輸出するためには、輸出相手国の残留農薬基準(MRL)等への対応が不可欠であり、チャを栽培していない輸出重点国の著しく低いMRLが日本茶輸出の障壁となっている。 ここでは、先行研究により作成した海外輸出に対応したチャ病害虫の防除体系マニュアルに基づき、各産地が実際に利用できる茶種別・輸出相手国別のチャ病害虫防除体系を構築・実証するとともに、輸出可能な茶の安定生産体制を確立し、日本茶の輸出促進に貢献する。	茶環境適応技術科 (内山徹、吉田達也) 〈共〉 農研機構果樹茶業研究部門	J A遠州夢咲	国庫委託 (地域戦略プロ)
茶業 (発酵茶) (加工)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	12 静岡の香りに特色ある茶の品質評価・香味改善に関する研究 12-1 紅茶の品質評価技術の開発 12-2 県内産紅茶の新たな香り発揚技術の開発 12-3 香り緑茶製造技術の低コスト化	(29-31) 29-31 29-31 29-31	紅茶の品質を客観的なデータで評価するため、近赤外成分分析技術を利用した品質評価技術を開発し、紅茶生産にフィードバックする。また、先行研究で得られた香り発揚の要因を紅茶に応用し、新たな香り発揚技術を開発する。 香り緑茶の大量香り発揚技術を現場の環境に対応した香り発揚技術に改良し、初期投資の低コスト化を図る。	製茶加工技術科 (勝野剛、後藤正、藤井沢、山本幸佳)	カワサキ機工(株) 藤枝市茶振興協議会	県単
茶 業 (茶) (土壌肥料)	持続的農業生産技術や森林保全技術の開発	13 メタン発酵消化液を利用した茶施肥管理技術の開発〈受〉 13-1 メタン発酵消化液の施用が茶樹に及ぼす影響〈受〉 13-2 メタン発酵消化液の施用が環境に及ぼす影響〈受〉 13-3 現地実証試験〈受〉	(28-31) 28-31 28-30 31	メタン消化液を液肥の代替とすることで、品質向上、低コスト、環境負荷軽減を同時に実現する施肥管理技術を確立する。 ・メタン発酵消化液の施用が、茶の収量・品質に与える影響を明らかにする。 ・メタン発酵消化液の土壌での窒素挙動及び、環境への影響を明らかにする。 ・現地での問題点等を明らかとし、普及促進のための基礎資料を得る。	茶環境適応技術科 (渥美和彦、内山道春)	鈴与商事(株)	受託

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (茶) (病害虫)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	14 ハマキガ類の殺虫剤抵抗性機構の解明 と抵抗性診断技術の開発 〈委〉〈交〉〈共〉	(26-30)	ハマキガ類の殺虫剤抵抗性の実態を把握するとともに 遺伝子解析により抵抗性機構を解明し、これまでの室内検 定に変わる遺伝子解析による抵抗性診断技術を開発する。	茶環境適応技術 科 (内山徹、吉田 達也)	相良物産	14-1, 3, 4 国庫委託 (委託プロ)
		14-1 殺虫剤抵抗性チャノコカクモンハマ キの発生実態把握 〈委〉〈共〉	26-30	・チャノコカクモンハマキにおける殺虫剤抵抗性の実態を 把握する。	14-1, 3, 4〈共〉 農研機構生物機 能利用研究部門		14-2 国庫交付金 (食の安全 安心交付)
		14-2 殺虫剤抵抗性チャハマキの発生実態 把握 〈交〉	26-30	・チャハマキにおける殺虫剤抵抗性の実態を把握する。			
		14-3 殺虫剤抵抗性機構の解明 〈委〉〈共〉	26-30	・抵抗性遺伝子解析により殺虫剤抵抗性機構を解明する。			
		14-4 殺虫剤抵抗性診断技術の開発 〈委〉〈共〉	26-30	・遺伝子解析による殺虫剤抵抗性診断技術を開発する。			
茶 業 (茶) (病害虫)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	15 省力的かつ効率的なチャ病害虫防除技 術の確立 〈交〉	(28-30)	現在の品質を維持しながら、病害虫防除に関する技術の 省力化・効率化を実現するための技術を確立する。	茶環境適応技術 科 (鈴木幹彦)	経済連 (株)寺田製 作所	国庫交付金 (食の安全 安心交付)
		15-1 炭疽病に対する、各種殺菌剤の有効防 除期間の解明〈交〉	28-29	・最近になって登録された新規剤の有効防除期間が明らか になることで、効率的な使用が可能となる。			
		15-2 整枝と薬剤散布を同時に行えるアタ ッチメントの開発による、輪斑病防除技 術の省力化〈交〉	28-30	・農薬散布量を大幅に削減しても十分な防除効果を上げる ことが出来るようになる。さらに、薬剤散布に伴う燃料 費の削減も可能となる。			
		15-3 耕種的防除法の有無と年間防除体系 の組み立て実証〈交〉	28-30	・銅剤をはじめとする各種予防剤（保護剤）と耕種的防除 法を組み合わせた場合の防除効果が明らかになる。			
茶 業 (茶) (病害虫・ 栽培)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	16 新農薬実用化試験 〈受〉	(30)	日本植物防疫協会等から委託された農薬登録のための効 果試験等を行う。	茶環境適応技術 科 (鈴木幹彦、内 山徹、吉田達 也)	日植防 日植調	受 託
		16-1 新殺虫剤、殺菌剤の選抜 〈受〉	30				
		16-2 除草剤の選抜 〈受〉	30				
茶 業 (茶) (病害虫・土 壌肥料)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	17 新農薬・新肥料及び新資材等の効果確 認及び使用法の検討〈受〉	(30)	新農薬、新肥料、新資材等の効果及び効率的な使用方法 を明らかにする。	茶環境適応技術 科 (内山道春、渥 美和彦、鈴木幹 彦、内山徹)	肥料協会 日植防	受 託
		17-1 新農薬の使用法の検討 〈受〉	30	・新規登録農薬の適正な使用方法を検討する。			
		17-2 新肥料の効果の検討 〈受〉	30	・新肥料の効果と適正な使用方法を検討する。			
		17-3 新資材等の効果の検討〈受〉	30	・新資材等の有効性を検討する。			

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

(3) 果樹研究センター

農林技術研究所 果樹研究センター No. 1

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (カンキツ) (栽培、商品 開発)	農・食・健連携のアグ リオープンイノベー ションの推進	1 健康長寿静岡の新たな機能性食品産業 の創出<共>	(28-30)	県の5研究機関の研究シーズを結集し、多様な農林水産物の機能性、情報を網羅したデータベースを構築する。また、共同研究により一次産品や加工品の高付加価値化、機能性表示制度を活用した新商品開発などを行う。	果樹生産技術科 (瀨崎櫻、山家一哲、平井実季、吉川公規) 果樹加工技術科 (石井香奈子)	農芸振興課	県単 (新成長)
		1-1 本県農林水産物の機能性データベースの構築	28-30	本県で生産する多様な農産物について各品目の持つ機能性に関する情報を調査・集積し、データベース化を推進する。	<共>工技研、畜技研、水技研、 環衛研		所内連携
		1-2 機能性表示制度を活用した商品開発	28-30	柑橘類に含まれる機能性成分(β-クリプトキサンチン、ノビレチン)について、栽培期間中または貯蔵中における成分増強技術、加工に向けた効率的な成分抽出技術を確立させ、機能性表示制度に対応した商品を開発する。			
果 樹 (カキ、キウイフルーツ) (栽培)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	2 カキ、キウイフルーツ育成新品種の利用法の開発<委><共> 2-1 カキわい性台木の利用技術の開発<委><共>	(27-32) 27-32	カキ栽培の機械化による省力化を図るため、わい性台木苗を主幹仕立てにした直線的樹形を開発する。	果樹生産技術科 (瀨崎櫻、吉川公規) 果樹加工技術科 (橋本望) <共>(国) 果樹茶業研究部門他	落葉果樹振興協会	国庫委託 (革新的技術開発・緊急展開事業)

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (ウンシュウミカン) (栽培、土壤肥料、病害虫、機械)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	3 無人航空機による樹園地の超省力・精密生産管理システムの開発<共>	(28-30)	樹園地における無人航空機の利用技術を確立し、樹園地における農作業の省力・軽労働・低コスト化、かつ生産性を高める精密生産管理技術を開発する。	果樹環境適応技術科 (増井伸一、影山智津子、江本勇治、土田祐大) 果樹生産技術科 (佐藤優賛、平井実季、吉川公規) <共>ふじのくにSKY イノベーション、リモート・センシング技術センター、 (国)産業技術総合研究所	農芸振興課、お茶振興課	県 単 (新成長)
		3-1 超省力化技術の開発	28-30	傾斜地の農作業のうち、重労働の農薬散布と施肥における無人航空機の利用技術を開発する。			
		3-2 センシング技術を応用した効率的生体情報収集技術の開発<共>	28-30	無人航空機に搭載したカメラにより、モニタリング画像を空中から迅速に収集してマップ化し、さらに樹体成育量、ストレス診断の基礎技術を開発する。			
		3-3 無人航空機を活用した産地管理システムの構築と樹園地経営モデルの検証	28-30	空中センシング技術により得られる樹園地別の詳細な情報を産地全体の生産指導に結びつける。また、無人航空機を実際の生産現場で使用し、作業効率・コストを検証する。			
果 樹 (ウンシュウミカン) (栽培、機械)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	4 移動および運搬作業を無人化する農業用自律走行ロボットの開発	(29-31)	果樹園管理作業において、収穫物の運搬等、労働負荷の大きな作業への自動運搬ロボットの有効的な利用方法を確立し、実用的かつ超省力的な果樹生産を実現する。	果樹生産技術科 (佐藤優賛、平井実季、吉川公規)	農業戦略課	県 単 (新成長) 所内連携
		4-1 ロボットを活用する果樹園管理省力化技術の開発	29-31	果樹研究センターで開発した作業者追従自動運搬ロボット等について、省力化につながる圃場条件を明らかにし、最適な運用となる走行制御技術、樹園地管理技術を開発すると共に追従制御の改良を図る。さらにロボット導入の経営試算を実施する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (ウンシュウミカン、カキ) (栽培、土壌肥料)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	5 カンキツ新樹形における効率的な管理手法の開発<委><共> 5-1 垣根型樹形を形成する省力的な枝梢・結実管理技術の開発<委><共> 5-2 樹勢維持により安定生産可能な肥培管理技術の開発<委><共>	(28-32) 28-32 28-32	省力化と未収穫期間の短縮、安定多収を確保できる養水分管理法と樹形管理技術の開発を構築する。 摘果剤や機械剪定により、作業の省力化が可能な垣根型のわい化樹形管理技術を開発する。 液肥管理技術、マルチ被覆などにより、樹勢を維持でき安定生産可能な肥培管理技術を確立する。	果樹環境適応技術科 (江本勇治、影山智津子) 果樹生産技術科 (山家一哲、佐藤優賛、平井実季、吉川公規) <共>(国)果樹茶業研究部門他	丸浜柑橘農協連	国庫委託 (革新的技術開発・緊急展開事業)
果 樹 (ブルーベリー、カキ、スモモウメ、イチジク) (栽培、育種、流通加工)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	6 ブルーベリー、カキ、スモモウメ、イチジクの規模拡大に向けた生産性向上技術の開発<委><共> 6-1 ブルーベリーの収穫労力削減のための房採り収穫技術の確立 6-2 カキおよびモモにおける酵素剥皮処理による省力供給技術の開発<委><共>	(27-30) 28-30 27-30	力強い果樹産地の育成を目指し、特に高単価が期待できるブルーベリー、カキ、スモモウメ、イチジクの規模拡大に向けた新技術を開発する。 ブルーベリーの収穫労力の省力化に向け、房採り収穫に適した品種、栽培法を明らかにする。 酵素剥皮技術の条件をカキ及びモモで明らかにし、剥皮作業を省力化する。	果樹加工技術科 (村上覚、石井香奈子、橋本望、荒木勇二) 果樹生産技術科 (吉川公規) 5-2<共>(国)果樹茶業研究部門	落葉果樹振興協会・丸浜柑橘連	県 単 5-2 国庫委託 (革新的技術開発・緊急展開事業)
果 樹 (キウイフルーツ、ナシ) (栽培)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	7 キウイフルーツ・ナシ安定生産のための花粉自給率向上に繋がる省力・低コスト花粉採取技術の開発<委><共> 7-1 キウイフルーツ花粉の効率的採取技術の開発<委><共> 7-2 キウイフルーツ、ナシにおける静電風圧式受粉機の効果確認<委><共>	(28-30) 28-30 28-30	花粉の効率的採取法を目指した枝管理技術を開発すると共に、新たに開発した静電風圧式受粉機による花粉量削減効果を検証し、輸入花粉への依存度を下げる。 キウイフルーツ花粉の効率的採取に向けた、枝管理技術および新型花蕾採取機による効率的採取を検討する。 キウイフルーツ、ナシにおいて、静電風圧式受粉機利用による着果率や品質、省力効果等について検討する。	果樹加工技術科 (村上覚) 果樹生産技術科 (平井実季、吉川公規) <共>埼玉県、(国)革新工学研他	静岡県落葉果樹振興協会	国庫委託 (農林水産業・食品産業科学研究推進事業)

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (キウイフ ルーツ、イチ ジク) (栽培)	生産性を革新する省 力化・効率化技術の開 発	8 落葉果樹における低コスト施設栽培 技術の開発<新> 8-1 キウイフルーツにおけるかいよう病 Psa3 発生を防ぐ施設栽培方法の開発 <新> 8-2 イチジクにおける可販果率を高める 簡易屋根掛け栽培技術の開発<新>	(30-32) 30-32 30-32	キウイフルーツかいよう病 Psa3 の発生防止、イチジク の果実腐敗抑制を目的とした低コスト施設栽培技術を開 発する。 施設栽培におけるかいよう病 Psa3 の発生状況や果実収 量・品質を調査し、経済性を評価して栽培技術をマニユ アル化する。 簡易屋根掛け栽培の生育・収量・可販果率を調査し、経 済性を評価して栽培技術をマニュアル化する。	果樹加工技術科 (橋本望、村上 覚) 果樹生産技術科 (平井美季、吉 川公規)	静岡県落葉 果樹振興協 会	県 単
果 樹 (ウンシュウ ミカン) (栽培、流通 加工)	マーケットにおける 競争力を強化する新 商品・技術の開発	9 ふじのくに農水産物の品質・競争力向上 と輸出拡大技術の開発<共> 9-1 UV等光照射を中心としたみかんの 腐敗防止技術の開発<共>	(28-30) 28-30	輸出拡大を目指す本県の主要農水産物について、輸出・ 販路拡大上の技術的課題を解決することにより、農水産物 の輸出振興に貢献する。 みかんはアジアやカナダに船便で輸出されているが、コン テナ中での腐敗が問題となっている。そこで、腐敗を防 止できる果実へのUV照射技術等の実用化を図ることによ り、低コストな腐敗防止技術を開発する。	果樹加工技術科 (荒木勇二、石 井香奈子) 果樹生産技術科 (中村茂和、山 家一哲) 果樹環境適応技 術科 (加藤光弘) <共>(一財)雑賀 研、縣商店	マーケティ ング課、農芸 振興課	県 単 (新成長) 所内連携
果 樹 (ウンシュウ ミカン) (栽培、流通 加工)	マーケットにおける 競争力を強化する新 商品・技術の開発	10 ウンシュウミカンの長期鮮度保持技術 の実証<委><共> 10-1 GP 剤と青色 LED 冷風貯蔵の組合せに よる温州ミカンの鮮度保持技術の実証< 委><共> 10-2 温州ミカンの長期鮮度保持技術のマ ニュアル作成<委><共>	(28-30) 28-30 29-30	本県の温州ミカンは貯蔵が主力であるが、温暖化により 貯蔵性が低下しているため、貯蔵果実の鮮度保持につい て、従来技術を上回る新しい貯蔵技術を開発する 温州ミカンの腐敗抑制、浮皮防止、品質保持について、 GP 剤と青色 LED、冷風貯蔵を組み合わせた技術を実証する。 栽培技術を含めた既存の手法と、新しい貯蔵方法を組み合 わせた体系を確立し、マニュアルを作成する。	果樹生産技術科 (山家一哲) 果樹加工技術科 (石井香奈子、 荒木勇二) <共>(国)九州 沖縄農研他	マーケティ ング課	国庫委託 (革新的技 術開発・緊 急展開事 業)

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (カンキツ、 カキ、ナシ、 キウイフル ーツ) (育種)	マーケットにおける 競争力を強化する新 商品・技術の開発	11 しずおかオリジナル果樹品種の育成と 適応性検定<委><共>	(28-32)	本県の新たな商材として、貯蔵性が高い晩生品種を開発 する。また、温暖な気候において良食味で長期出荷を可能 とする高品質な落葉果樹品種を育成する。	果樹生産技術科 (中村茂和、吉 川公規、平井実 季) 果樹加工技術科 (村上覚) 10-1<共>筑波大 学他	農業経営士 協会果樹部 会	県 単 10-1 国庫委託 (S IP 育種) 10-3 国庫委託 (カンキツ 育種に係る 系統適応 性・特性検 定試験)
		11-1 貯蔵みかん産地しずおかのオリジナ ルカンキツ品種の開発<委><共>	28-32	重イオンビーム照射を主体とした突然変異育種法によ り、効率的な本県オリジナルの品種開発を図る。			
		11-2 多彩な良食味オリジナル落葉果樹品 種の開発	28-32	多彩な果実を供給するため、食味に優れ、長期出荷等を 備えた新たな落葉果樹品種を開発する必要がある。			
		11-3 (国)果樹茶業研究部門育成果樹系統 適応性検定試験<委>	28-32	特色ある果樹産地育成に向け、各産地の気象条件に適応 する高品質な新品種の情報を提供する。			
果樹 (カンキツ、 ナシ) (病害虫)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	12 果樹における土着天敵の増殖・利用体 系の開発<新>	(30-32)	土着天敵を簡易に増殖できるシステムを開発し、土着天 敵の増殖・利用と既存防除技術を組み合わせたカンキツ・ ナシの害虫防除体系を確立する。	果樹環境適応技 術科 (土田祐大、増 井伸一)	J A 静岡経 済連	県 単
		12-1 カンキツおよびナシにおける有力な 土着天敵種の有効性検証<新>	30-31	県内カンキツ園およびナシ園で働くカブリダニや寄生 蜂のうち特に有力な種を解明し、その有効性を検証する。			
		12-2 土着天敵の増殖・利用技術の確立 <新>	30-32	生産者等が土着天敵を簡易に増殖し、餌や水分を提供し て定着性を向上する技術を開発する。			
		12-3 土着天敵の増殖・利用による害虫 防除体系の確立<新>	31-32	土着天敵の増殖・利用と既存の防除技術を組み合わせた カンキツ・ナシの害虫防除体系を現地実証する。			

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果樹 (カンキツ) (病害虫)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	13 温州萎縮病の耐病性台木育成による被害軽減技術の開発<新>	(30-34)	耐病性台木を利用した温州萎縮病被害軽減技術を開発する。	果樹環境適応技術科 (加藤光弘、影山智津子) 果樹生産技術科 (中村茂和、平井実季)	J A 静岡経済連	県 単
		13-1 耐病性台木の生育特性と耐病性の評価<新>	30-34	選抜中の耐病性台木に接ぎ木した苗木の生育特性や耐病性、果実品質を明らかにし、有効な耐病性台木を選抜する。			
		13-2 耐病性台木の増殖技術の開発<新>	30-34	選抜中の台木は挿し木繁殖では増殖効率が悪いいため、効率的な台木の増殖法を開発する。			
		13-3 耐病性台木による温州萎縮病被害軽減技術の現地実証<新>	32-34	耐病性台木に接ぎ木した樹を現地ほ場で栽培し、特性や耐病性を検証する。			
果 樹 (カンキツ) (病害虫)	持続的農業生産技術 や森林保全技術の開 発	14 生育調節及び病害虫防除等新資材の開発<受>	(30)	新しい植物生育調節剤、病害虫防除剤、肥料等の特性解明と利用法を開発する。	果樹環境適応技術科 (影山智津子、増井伸一、加藤光弘、江本勇治、土田祐大) 果樹生産技術科 (佐藤優賛) 果樹加工技術科 (村上覚)	植防協会 肥料協会	受 託
		14-1 生育調節剤・除草剤利用法の開発<受>	30	新植物調節剤、除草剤の効果、薬害及び安全性の解明とともに高度利用技術を開発する。			
		14-2 殺虫剤・殺菌剤利用法の開発<受>	30	新殺虫剤、殺菌剤の効果、薬害及び安全性の解明とともに高度利用技術を開発する。			
		14-3 肥料等資材の利用法の開発<受>	30	新開発肥料、土壌改良剤等の高度利用技術を開発する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

(4) 伊豆農業研究センター

農林技術研究所 伊豆農業研究センター No. 1

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
花 き・野菜・その他 (枝物・特産野菜・その他) (栽培)	農・食・健連携のアグリオープンイノベーションの推進	1 カワヅザクラ切り枝等伊豆特産作物の栽培技術の開発<新><委><共>	(29-31)	カワヅザクラの切り枝、野ブキ、キヌサヤエンドウ、薬用作物等について、伊豆特産作物としての産地化に向けた栽培技術を開発する。	生育・加工技術科 (種石始弘)	JA伊豆太陽	県 単 1-3 国庫委託 (農林水産省委託プロジェクト研究)
		1-1 ジョイント仕立てによるカワヅザクラの切り枝利用技術の開発<新>	29-31	カワヅザクラの切り枝を利用するため、開花調整法の開発やジョイント仕立てによる早期成園化を検討する。	わさび生産技術科 (久松 奨)		
		1-2 伊豆特産野菜の安定生産技術の開発<新>	29-31	野ブキの連作障害やキヌサヤエンドウの「白斑症」の原因を解明し対応策を明らかにする。	1-3<共> 農研機構、医薬健栄研他		
		1-3 ミシマサイコの生産拡大のための技術開発<新><委><共>	29-31	ミシマサイコの初期生育の改善により、発芽率の向上技術やマルチ利用技術を開発、実証する。			
野 菜・果樹 (ワサビ・中晩柑他) (商品開発)	農・食・健連携のアグリオープンイノベーションの推進	2 健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出<共>	(28-30)	本県食品関連産業を活性化し、「ふじのくに静岡の経済発展」と「健康増進」を推進するため、本県の豊かな農林水産物が持つ機能性を活かした研究を実施する。	生育・加工技術科 (浜部直哉、前田未野里、種石始弘)	経済産業部	県 単 (新成長) 所内連携
		2-1 本県農林水産物の機能性データベースの構築<共>	28-30	多様な農水産物の機能性情報を網羅したデータベースを構築し、ワサビについては品種別、部位別の機能性成分の違いを明らかにする。	わさび生産技術科 (西島卓也) 2-1<共> 本所、茶研セ、果樹研セ、工技研、畜技研、水技研、環衛研他		
花 き (カーネーション) (育種・栽培)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	3 夏期の高温化に適応したカーネーション新品種の育成選抜と栽培技術の開発	(28-32)	高温下で多発する病害に対して抵抗性がある品種を育成し、高温対策技術を確立する。	生育・加工技術科 (加藤智恵美、勝岡弘幸)	JA伊豆太陽	県 単
		3-1 高温抵抗性品種の育成	28-32	交配育種により、高温下での2年切り栽培に適したオリジナル品種を育成する			
		3-2 育成品種の2年切り栽培体系の確立	28-32	高温対策技術を開発し、育成品種の2年切り栽培体系を確立する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <指>：指定試験 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
花 き (マーガレット) ・特産花き) (育種・栽培)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	4 マーガレット新品種育成と伊豆特産花きの生育特性の解明<委><受><共>	(28-32)	耐暑性、耐寒性に優れた早生性品種やオリジナル性の高い品種育成と夏期の高温対策技術を開発する。	生育・加工技術科 (勝岡弘幸、加藤智恵美) 4-3<共> 宮崎県、農研機構他	静岡県東部花き流通センター農協、JA伊豆太陽	県 単 4-3 国庫委託 (革新的技術開発・緊急展開事業) 受託 (日本種苗協会)
		4-1 鉢物用マーガレットの新品種育成	28-32	オリジナル性が高く、耐暑性、耐寒性に優れた早生の新品種を育成する。			
		4-2 切花用マーガレットの新品種育成	28-32	有色品種 (黄色、桃色) を中心とした早生品種で、採花本数の多い新品種を育成する。			
		4-3 伊豆特産花きの生育特性の解明<委><受><共>	28-32	マーガレット、ハナムギ等の生産性や品質を向上する技術を開発する。			
野 菜 (ワサビ) (育種)	生産性を革新する省力化・効率化技術の開発	5 ワサビ新品種育成と系統選抜<委><共>	(28-32)	種子繁殖が可能で、揃いが良く安定した生産ができる品種を育成する。	わさび生産技術科 (馬場富二夫、久松 奨、西島卓也) 5-3<共> 山口県、佐賀県他	静岡県山葵組合連合会	県 単 5-3 国庫委託 (革新的技術開発・緊急展開事業)
		5-1 種子繁殖性品種の育成	28-32	夏季に生育が旺盛な品種を育成する。			
		5-2 栄養繁殖性品種の評価法の確立および系統選抜	28-32	栄養繁殖性品種の評価方法を確立し、現地の優良系統を選抜する。			
		5-3 育成品種の採種、栽培体系の確立<委><共>	28-32	採種・種子保存方法を含めた安定生産のための栽培体系を確立する。			
果 樹 (中晩柑他) (育種)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	6 伊豆の多様な販売形態に利用できる果樹品種の選抜	(28-32)	他機関で育成された品種や既存品種の中で、伊豆地域に適した品種を選抜し、新品種育成のための交雑手法を開発する。	生育・加工技術科 (前田未野里、浜部直哉)	県農業経営士会果樹部会	県 単
		6-1 特産品種開発に向けた果樹品種の選抜と交雑手法の開発	28-32	特産品開発や特色のある果樹品種を育成するため、有望な品種を選抜し、交雑手法を開発する。			
		6-2 多彩な販売形態に利用できる果樹品種の導入と選抜	28-32	国立研究開発法人等が育成した系統や品種について、生育や品質を調査し、伊豆地域に適した品種を選抜する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <指>：指定試験 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (中晩柑) (栽培)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	7 ヒュウガナツ系品種の高品質果実・長期出荷体系の開発<新>	(30-32)	ヒュウガナツ系品種の特性解明と‘古山ニューサマー’の結実安定技術を開発する。	生育・加工技術科 (浜部直哉、前田未野里)	JA伊豆太陽	県 単
		7-1 ヒュウガナツ系品種の特性解明と長期出荷体系の開発<新>	30-32	ヒュウガナツ系品種‘はるひ’の特性解明と貯蔵技術の開発を行い、長期出荷体系を確立する。			
		7-2 高品質果実安定生産技術の開発<新>	30-32	‘古山ニューサマー’の結実安定技術の開発と高品質化が可能な栽培技術を開発する。			
野 菜 (ワサビ) (栽培)	マーケットにおける競争力を強化する新商品・技術の開発	8 ワサビ種苗の安定的生産供給体制の確立	(28-30)	種苗を安定的に周年供給できる生産技術を開発する。	わさび生産技術科 (久松 奨、馬場富二夫、西島卓也)	静岡県山葵組合連合会	県 単
		8-1 種子繁殖性品種の種苗生産供給技術の開発	28-30	種子繁殖性品種の実生苗生産における種子の発芽率向上技術と育苗期間短縮技術を開発する。			
		8-2 栄養繁殖性品種の苗生産供給技術の開発	28-30	栄養繁殖性品種の二次苗生産における増殖率向上技術を開発する。			
		8-3 秋季定植苗の安定供給技術の開発	28-30	夏季高温期の育苗技術及び苗の長期冷蔵技術を開発する。			
その他 (共通)	持続的農業生産技術や森林保全技術の開発	9 農作物品種及び生産資材の比較、検定、調査<受>	(30)	地域で要望された調査や緊急的な課題について検討する。	生育・加工技術科 わさび生産技術科	植物防疫協会、静岡県山葵組合連合会等	県 単 受託
		9-1 農作物品種の比較、検定<受>	30	新品種、新作物等の特性について検討する。			
		9-2 肥料、農薬等の効果検定、調査<受>	30	新しく開発された肥料、農薬等を検定する。			
		9-3 資材機械等の性能調査<受>	30	被覆材、新型機械、器具等を調査する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <指>：指定試験 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

(5) 森林・林業研究センター

農林技術研究所 森林・林業研究センター No.1

部 門	試験研究の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
森林・林業 (スギ) (林業経営) (林業機械)	森林資源の循環利用 による林業の成長産 業化	1 多様なニーズに対応する県産材供給体 制構築に関する技術開発 1-1 ICTによる丸太の供給情報の共有化 1-2 ドローンを活用した森林資源情報等 の把握技術の開発	(29-31) 29-31 29-31	多様なニーズへの安定供給を可能にするため、丸太生産 業者と製材加工業者の生産情報を共有化するネットワー クシステムの構築を行う。 木材製品や丸太等の生産情報をGISで共有し、ICT を活用したネットワークシステムを構築する。 樹種、材積、立木形状、地形等の森林情報の取得を、ド ローンを活用して低コストで行う手法を開発する。	森林資源利用科 (佐々木重樹・ 星川健史・平山 賢次)	林業会議所 森林計画課 林業振興課	県単 (新成長)
森林・林業 (スギ) (木材加工)	森林資源の循環利用 による林業の成長産 業化	2 要求性能に応じた木材を提供するた め、国産大径材丸太の強度から建築部材 の強度を予測する技術の開発〈委〉〈共〉 2-1 大径丸太含水率の非破壊評価・選別 技術の開発〈委〉〈共〉	(28-32)	スギ大径丸太の木材性質から建築部材の強度を予測す る技術のうち、高含水率域の丸太内部の含水率(水分)分 布を非接触で評価する手法及び計測装置の開発を行う。 スギ大径丸太の内部(心材)含水率分布を高精度に評価 を目的として、丸太の非接触式では低周波域電磁波の位相 やガンマ線検出量、接触式では針式電極等の位相や静電容 量及び製材・乾燥前後の含水率試験等に基づき、現場への 実用化導入を想定した評価手法と装置を開発する。	森林資源利用科 (池田潔彦・星 川健史) 〈共〉森林総合研 究所、県内企業	林野庁 林業振興課	国庫委託 (「革新的 技術開発・ 緊急展開事 業」(うち 先導プロジ ェクト))
森林・林業 (シイタケ) (特用林産)	森林資源の循環利用 による林業の成長産 業化	3 菌床シイタケ栽培等における安定生産 技術の開発〈交〉 3-1 空調栽培における安定生産技術の開 発〈交〉 3-2 2回目以降の発生量を増加させる菌 床管理技術の開発〈交〉	(29-33) (29-33) (29-33)	空調施設栽培での生産量が安定しない原因等を解明し、 その対処技術を開発する。 季節別生産量の推移や発生量ばらつき等の調査、冷蔵刺 激等を利用した安定生産技術を開発する。 適切な休養条件の解明、新たな資材・機器等を利用した 増収技術を開発する。	森林資源利用科 (中田理恵)	大井川地区 シイタケ生 産者組合協 議会	国庫交付金 (林業普及 システム化 事業)

〈新〉: 新規課題 〈助〉: 国庫補助 〈指〉: 指定試験 〈委〉: 国庫委託 〈交〉: 国庫交付金 〈受〉: 受託 〈共〉: 共同研究

部 門	試験研究の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
森林・林業 (シイタケ) (森林保護)	森林資源の循環利用 による林業の成長産 業化	4 シイタケ栽培等における新たな害虫 の対策に関する研究<新>	(30-34)	シイタケ栽培上キノコバエ類をはじめ、これまでに知ら れていなかった害虫が多く発生するようになってきた。既 知の害虫も含め、生態解明を行い、防除対策を開発する。 近年、県内で被害が確認されたキノコバエ類などの新た な害虫について、生態解明し、化学農薬を使わない防除対 策を解明する。 天敵寄生蜂の寄生戦略等の解明と、生産施設での実証試 験。 ハラアカコブカミキリ、クビアカツヤカミキリのモニタ リング。	森林育成科 (加藤徹)	森林整備課 林業振興課	県 単
		4-1 新たに発生したシイタケ害虫の生態と 防除対策の解明<新>	30-34				
		4-2 ナガマドキノコバエの天敵を利用した 防除法の解明<新>	30-34				
		4-3 侵入の恐れのある害虫のモニタリング <新>	30-34				
森林・林業 (スギ) (木材加工)	森林資源の循環利用 による林業の成長産 業化	5 成長に優れた苗木を活用した施業モ デルの開発<交><新>	(30-34)	高い収益性が期待できる、県内一斉林に生育している早 生樹の材質、基本物性、加工特性を明らかにする。 ユリノキ、コウヨウザン等の早生候補樹種について、成 長・材質特性・生育環境を解明すると共に製品試作等に基 づき優良性を実証する。	森林資源利用科 (池田潔彦・平 山賢次)	森林整備課	国庫委託 (「戦略的 プロジェクト研究」 (うち委託 プロ)) 国庫交付金 (林業普及 システム化 事業)
		5-1 将来の利用を見越した材質・加工 特性の評価 <交><新>	30-34				
森林・林業 (スギ・ヒノ キ) (木材加工)	森林資源の循環利用 による林業の成長産 業化	6 原材料の安定供給による構造用集 成材の低コスト化技術の開発<委> <共><新>	(30-32)	集成材用ラミナの乾燥コスト削減が図られる効率良い 乾燥技術を確立して、集成材用ラミナの安定供給を図るこ とを目的とする。 材厚30~50mmのラミナ材を対象とした減圧乾燥装置 による最適な人工乾燥スケジュールを解明する。	森林資源利用科 (星川健史・池 田潔彦)	林業振興課	国庫委託 (「革新的 技術開発・ 緊急展開事 業」(うち 経営体強化 プロジェク ト))
		6-1 原料ラミナの効率的生産技術の開 発<委><共><新>	30-32				

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <指>: 指定試験 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
森林・林業 (スギ・ヒノキ) (育種)	森林資源の循環利用 による林業の成長産 業化	7 エリートツリー種子の早期生産技術 の開発<共><新>	(30-32)	県選抜のエリートツリー（特定母樹）を効率的に増殖す るため、自生する原木から少数しか得られない穂を用いて 、挿し木による母樹の大量増殖を進める。 スギ・ヒノキ各母樹の増殖の最適条件を明らかにする。 母樹園の管理方法を開発する。	森林育成科 (山田晋也・山 本茂弘・加藤徹 ・猿田けい)	森林整備課	県 単 (新成長)
		7-1 早期生産技術の開発<共><新>	30-32				
		7-2 大量生産技術の開発<共><新>	30-32				
森林・林業 (ヒノキ) (育 種)	森林資源の循環利用 による林業の成長産 業化	8 新たな人工交配施設を活用した優良種 子生産技術の開発	(28-32)	低コスト再造林に対応する高成長、高強度、少花粉の苗 木生産に必要な種子供給体制を整備する。 母樹の成長・材質・種子生産能力評価を行い選抜する。 新たな手法による人工交配及び早期成園化技術を開発 する。	森林育成科 (山田晋也・山本 茂弘)	森林整備課	県 単
		8-1 特性評価に基づく母樹の選抜	28-30				
		8-2 優良種子生産技術の開発	28-32				
森林・林業 (スギ・ヒノキ) (育林)	森林資源の循環利用 による林業の成長産 業化	9 低コスト育林体系技術の構築に関す る研究<共><新>	(30-34)	エリートツリー候補木等の育成、短期間でのコンテナ苗 育成技術の開発、低密度植栽の育林方法等を検討し、総合 的な低コスト再造林・育林の体系を構築する。 林地に植栽したスギ交配苗等の育成と評価を行うと共 に、短期間でのコンテナ苗育成技術の開発を行う。 地存えの低コスト化のための試算を行うと共に、低密度 植栽のコスト分析と植栽木の形質評価を行う。	森林育成科 (袴田哲司・山 本茂弘)	森林整備課	県 単
		9-1 再造林の低コスト化につながる優良 種苗の育成技術の開発<共><新>	30-34				
		9-2 低コスト育林技術の構築<共><新>	30-34				
森林・林業 (クロマツ) (森林保全)	森林の多面的機能の 維持・増進	10 無人航空機による森林病虫害防除 システムの実用化<委><共>	(28-30)	計測用無人航空機の飛行により取得した3次元地図か ら、樹冠上から一定距離を保った飛行ルートを作成し、薬 剤散布用無人航空機による自動散布が行えるシステムを 開発し実証を行う。また、森林での安全な航行のための、 無人航空機の運用体制を開発する。同時に、無人航空機か ら取得した画像から被害木を判別して位置図を作成する ことで、予防散布と伐倒駆除を合わせた一体的な防除シ ステムを構築する。	森林資源利用科 (星川健史・佐 々木重樹・平 山賢次) 森林育成科 (加藤徹・猿田 けい) <共>県内企業	森林整備課	国庫委託 (地域)
		10-1 無人航空機による自動散布システム の開発<委><共>	28-30				
		10-2 無人航空機の運用体制の開発 <委><共>	28-30				

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <指>：指定試験 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の重点方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
森林・林業 (海岸防災 林) (森林保全)	森林の多面的機能の 維持・増進	11 津波に強い多機能海岸防災林に対応した苗木生産と造成管理の技術開発	(26-30)	海岸防災林を早期に確実に造成するため、抵抗性クロマツや広葉樹の苗木を大量生産する技術や海岸林造成及び育成管理技術を開発する。	森林育成科 (猿田けい・袴田哲司・加藤徹)	森林保全課 西部農林	県 単
		11-1 多機能海岸防災林へ植栽する種苗生産技術の開発	26-30	松くい虫抵抗性クロマツのさし木による大量生産技術や海岸に適した広葉樹のコンテナ苗生産技術を開発する。			
		11-2 多機能海岸防災林の造成技術の開発	26-30	防潮堤盛土へ海岸防災林を造成する技術や海岸防災林の機能向上を図る育成管理技術を開発する。			
森林・林業 (ニホンジ カ) (森林保護)	森林の多面的機能の 維持・増進	12 シカ個体数削減過程で生じる捕獲効率低下の抑制に関する研究	(28-32)	シカ個体数削減過程で起こる、密度低下、捕獲困難地残などによる捕獲効率低下に対して、誘引による捕獲の高効率化、捕獲作業効率低下要因の軽減といった対策を研究する。	森林育成科 (大場孝裕・小松鷹介)	自然保護課	県 単
		12-1 誘引による捕獲の高効率化に関する研究	28-32	様々な誘引物の効果を環境条件も踏まえて検証する。誘引物・誘引方法と捕獲方法の最適化を行う。			
		12-2 捕獲作業効率低下要因の軽減に関する研究	28-32	クマ・カモシカの錯誤捕獲軽減・対処技術を開発する。シカ捕獲個体放置の影響を検証する。			
森林・林業 (ハクビシン・ アライグマ ・ イノシシ) (森林保護)	森林の多面的機能の 維持・増進	13 果樹園での加害獣判別と捕獲技術の確立およびイノシシの成獣捕獲技術の開発	(28-30)	正確な加害獣の調査手法及び捕獲技術の確立を行うとともに、イノシシ成獣を捕獲しやすい箱わなを開発し捕獲方法について検討する。	森林育成科 (水井陽介・小松鷹介)	地域農業課	県 単
		13-1 加害獣調査および捕獲手法の確立	28-30	果樹園で加害獣を調査する。中型獣捕獲手法をマニュアル化する。			
		13-2 イノシシ成獣捕獲技術の開発	28-30	成獣を捕獲しやすい餌設置方法を開発する。			

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈指〉：指定試験 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

6 試験研究関連事業

研究機関	事業名	内容	担当
本所	原々種、原種の育成及び原種の配布	水稲、麦の原々種、原種の育成及び原種の配布	水田農業生産技術科
	採種ほの審査・指導	採種ほの審査・指導	水田農業生産技術科、植物保護・環境保全科、病虫害防除所
	イチゴ無病苗の増殖・配布	イチゴ無病苗の原々苗の育成・増殖・配布	野菜生産技術科
	肥料検査事業	肥料取締法に基づく肥料工場の立入検査と肥料の分析検査	栄養・機能性科
	植物遺伝資源の保存・管理	有用遺伝資源（種子）の保存・管理	本所
	出願品種選定栽培試験委託事業	登録出願品種（水稲、野菜、花き）の検定	本所
	農林大学学校教育業務	園芸課程学生の教育指導	本所
茶業研究センター	茶園施肥適正化推進事業	茶園の施肥量削減等の推進による環境にやさしい茶栽培体系の確立	茶環境適応技術科
	病虫害発生予察事業	基準ほ場での病虫害の発生調査、病虫害防除所に協力し、病虫害発生状況（予察情報）の提供	茶環境適応技術科
	農林大学学校教育業務	茶業課程学生の教育指導	茶業研究センター
果樹研究センター	遺伝資源の保存	果樹有用遺伝資源の保存	果樹生産技術科
	病虫害発生予察事業	病虫害の発生予測と適期防除の推進	果樹環境適応技術科
	農林大学学校教育業務	果樹課程学生の教育指導	果樹研究センター
伊豆農業研究センター	園芸作物優良種苗の育成・増殖・配布	カーネーション、マーガレットの無病苗の増殖・配布 キヌサヤエンドウの優良系種子の配布	生育・加工技術科
	優良種苗供給確保事業	柑橘品種（ヒュウガナツ等）のウイルスフリー苗供給	生育・加工技術科
	わさび生産振興対策事業	ワサビ優良品種の育成、ワサビ関連病虫害防除技術の開発	わさび生産技術科

研究機関	事業名	内容	担当
森林・林業研究センター	森の力再生事業効果調査	森の力再生事業における整備効果のモニタリング調査	森林育成科
	抵抗性クロマツ種苗の供給	抵抗性クロマツ苗の生産に必要な種子の生産・供与	森林育成科
	花粉飛散量調査	スギ・ヒノキの雄花の着生調査による花粉飛散量の予測	森林育成科
	松くい虫発生予察調査	松くい虫薬剤散布事業の適期を裏付けるためのマツノマダラカミキリの脱出消長調査	森林育成科
	林業薬剤効果調査	(社)林業薬剤協会の委託を受けた松くい虫防除薬剤の有効性調査	森林育成科
	三保松原のマツ保全指導	三保松原におけるマツ材線虫病の微害化及び老齢大木管理手法の技術的指導	森林育成科 森林資源利用科
	しずおか優良木材認証審査指導	しずおか優良木材認証工場の工場審査のアドバイス及び技術指導	森林資源利用科
	農林大学校教育業務	林業課程学生の教育指導	森林・林業研究センター

